

神の国を受け入れる子のように

<随想 聖書と保育> 「神の国はこのような者たちのものである。」
マルコによる福音書10章13～16節

子どもを連れてこようとした人々。それを、けしからんと叱りつけた弟子たち。その弟子たちをたしなめたイエス。そして最後、イエスは子どもたちを抱き上げ、手を置き、祝福された。

このたった4要素からなる上の箇所、「子ども」という言葉は出てきますが、その子たちが何をしたのか、どんな様子だったのか、まったく書かれていません。実はそこに、この箇所を読む際のポイントがあります。

そもそも、子どもたちはこの場所に来たかったのでしょうか。これも具体的には書かれていませんが、弟子たちが制止するのをイエスがやめさせた次の瞬間、イエスはもうすでに子どもたちを抱き上げ、祝福していたとありますから、きっと、子どもたちの方から、イエスの方に駆け寄って、抱きついてきていたのでしょう。

自分たちを連れてきた親や親戚たちなど近しい人々の手から、イエスの方へ自ら駆け寄っていったのはなぜでしょうか。どこか別の場所で、なんどもイエスと一緒に遊んだことがあるのかもしれませんが。あるいは、いつも子どもたちと遊んでいるイエスの体から、楽しそうな雰囲気立ちのぼっていて、「この人は友達だ」と肌で感じ取ったのかもしれませんが。とすると、ここは単にイエスが子どもたちを受け容れただけでなく、子どもたちのほうがイエスを受け容れた物語でもあります。

それでもやはり、どの一行にも、子どもたちが何をしたかまったく書かれていないのは、実はそれこそが、子どもたちが心の芯から、神の国を受け容れている証し、いや、というよりむしろ、神の国が彼らを包み込み、彼らと一緒に遊び込んでいる証しではないでしょうか。

牧師は一生懸命「神の国」の説教をしますが、実際の子どもは、昔も今も、そんなに甘くありません。「神の国」という言葉より、遊びたい気持ちの方が先になります。でも、だからすばらしい。次から次と新たな遊びを思いつき、夢中で遊び続けているその姿、子どもが遊ぶというより、遊びが子どもとなっている。その姿こそが、神の国、です。

(つくし保育園園長 つだかずお)

※上記は醍醐教会の1月19日(日)礼拝説教より抜粋しました。

<日曜日は教会へ！>毎日曜朝10時30分～醍醐教会(お庭のチャペル)
どうぞご家族一緒にお気軽にお越しください。
こども祝福、聖書の楽しいお話、美しい讃美歌。
神さまの愛を受け、新しい一週間をはじめましょう。